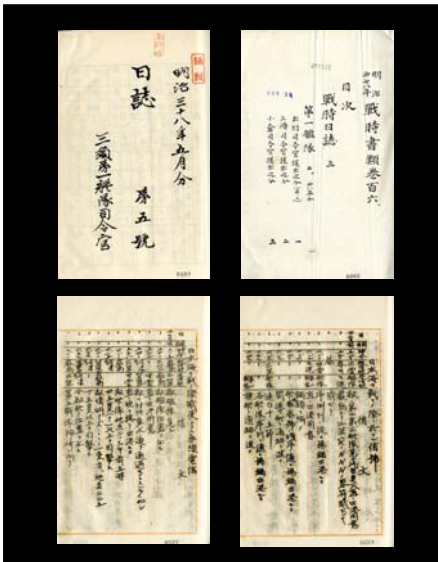


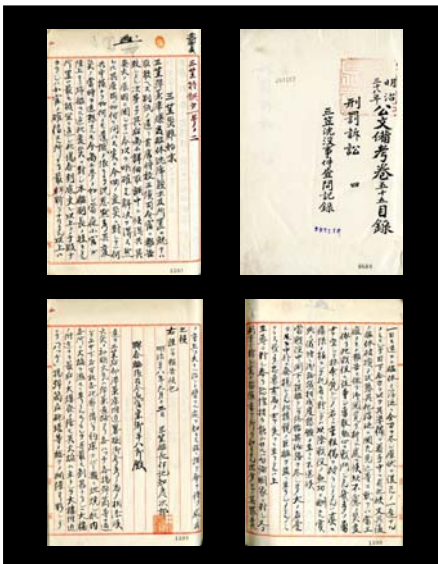
．．．．．「史料紹介コーナー」．．．．．

平成26年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>みす</sup>三須 <sup>そうたろう</sup>宗太郎 1855～1921年 《  
 —滋賀県出身の海軍大将—



**戦時日誌 三須司令官提出分** (登録番号：海軍省-日露戦書-M37-106-664)  
 三須宗太郎大将は、明治11年8月、海軍兵学校(5期)を卒業後、人事局長、軍令部次長、舞鶴鎮守府長官などの要職を歴任しました。この史料は、東郷平八郎大将率いる連合艦隊の第1艦隊司令官として日本海海戦に参戦した三須中将が、海軍大臣山本権兵衛大将に提出した「戦時日誌 三須司令官提出分」(明治38年1月分～同年10月分)です。なかでも明治38年5月分の「戦時日誌」には、日本海海戦(明治38年5月27日～28日)における第1艦隊の戦闘記録や「日本海海戦ノ際ニ於ケル信号」並びに「日本海海戦ノ際感受シタル無線電信」の一覧表が添付されています。この海戦で三須司令官は、左眼と頭部を負傷しながらも戦闘を続け、敵艦隊を撃滅しました。この功績により三須中将は、明治40年9月、男爵に叙せられました。



**三笠沈没事件査問記録** (登録番号：海軍省-公文備考-M38-55-623)  
 日露戦争後の明治38年9月11日、佐世保港に寄港していた戦艦「三笠」の後部弾薬庫が大爆発を起こして沈没し、251名の死者を出すという大惨事が発生しました。この史料は「三笠沈没事件査問記録」で、事故直後に三須中将を委員長として設立された「三笠変災査問委員会」が、関係者との間でやりとりした文書が綴られています。その一つで、三笠艦長伊地知彦次郎大佐が連合艦隊司令長官東郷平八郎大将に宛てた「三笠災難始末」(明治38年9月12日付)には、日露戦争中「閣下ノ旗艦トシテ終始其任務ヲ尽シ多大ノ名誉ヲ中外ニ発揚シタル此精鋭ノ巨艦ヲ茲ニ至ラシメタルノミナラス幾多忠勇有為ノ士ヲ失フニ至リタルハ(中略)実ニ驚愕言フ所ヲ知ラサル」、事故の顛末及び処置は「三須司令官ニ報告致シタル次第ニテ其後尚ホ詳細取調中」と報告しています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。  
 詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
 防衛研究所企画部企画調整課  
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)  
 外線：03-3713-5912  
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>